

令和5(2023)年度 病害虫発生予報 第9号

令和5(2023)年12月22日
栃木県農業環境指導センター

天候の変化に応じた適切な管理で病害虫発生を抑えましょう！

予想期間 12月下旬～1月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：少ない
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は少ない(ほ場率：平成比0%、株率：平成比0%)。(－)
- (3) 対 策 ・ 向こう1か月の気温は高く、降水量、日照時間は、ほぼ平成並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 多湿条件において発生しやすいので、下葉を除去し株元の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
- (3) 対 策 ・ 発病した果実や果梗等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
- (3) 対 策 ・ 予防を主体に、セイビアーフロアブル20(RACコード F:12)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・ [灰色かび病薬剤感受性結果①、②](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：少ない
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は少ない(ほ場率：平成比0%、株率：平成比0%)。(－)
- (3) 対 策 ・ 向こう1か月の気温は高く、降水量、日照時間は、ほぼ平成並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 株が軟弱徒長すると発生しやすくなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
- (3) 対 策 ・ 予防を主体に、サンリット水和剤(F:3)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (3) 対 策 ・ 曇雨天時にはくん煙剤を使用するが、硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるので天敵導入ほ場では長時間のくん煙処理は避ける。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：平成並
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない(ほ場率：平成比35%、株率：平成比28%)。(－)
- (3) 対 策 ・ 向こう1か月の気温は高く、降水量、日照時間は、ほぼ平成並の見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
- (3) 対 策 ・ 化学農薬に対する感受性低下が起りやすいため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (3) 対 策 ・ 天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいので、天敵導入前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を散布し、ハダニ類の増殖を抑制しておく。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(ほ場率：平成比117%、株率：平成比300%)。(＋)
- (3) 対 策 ・ 向こう1か月の気温は高く、降水量、日照時間は、ほぼ平成並の見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・ 花を良く観察して、観察した花の1割以上にアザミウマ類が見られる場合には、スピノエース顆粒水和剤(RACコード I:5)等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.19](#)、[アザミウマ薬剤感受性検定結果①、②](#)を当センターHPに掲載中。

5 トマト すすかび病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ すすかび病の現在の発生量は多い(ほ場率：平成比200%、葉率：平成比300%)。(＋)
- (3) 対 策 ・ 向こう1か月の気温は高く、降水量、日照時間は、ほぼ平成並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
- (3) 対 策 ・ 発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き、施設外で処分する。
- (3) 対 策 ・ トリフミン水和剤(F:3)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・ [すすかび病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

6 トマト 黄化葉巻病 (TYLCV) (タバココナジラミが媒介)

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない (ほ場率：平年比 38%、株率：平年比 25%)。(-)
・ 向こう1か月の気温は高く、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ 黄色粘着板の設置によりコナジラミが見られた時はアニキ乳剤(I:6)等を散布する。
・ 発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
・ 耐病性品種であっても、本病に感染すると伝染源となるため、感受性品種と同様に適正な防除をする。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

7 きゅうり ベと病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並 (ほ場率：平年比 173%、葉率：平年比 57%)。(±)
・ 向こう1か月の気温は高く、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 施設内が多湿にならないよう適切な換気を行うとともにかん水量に注意する。
・ 草勢低下は発生を助長させるので、適正な肥培管理を行う。
・ 予防を主体にジャストフィットフロアブル(F:43・40)等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [べと病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

8 なら 白斑葉枯病

- (1) 発生予想 発生量：**少ない**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は少ない (ほ場率：平年比 0%、株率：平年比 0%)。(-)
・ 向こう1か月の気温は高く、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 施設内が多湿にならないよう、日中の気温の高いときを見計らって換気を行う。
・ 捨て刈りした葉は伝染源となるため、施設外に持ち出し、適切に処分する。
・ 発生初期に、セイビアーフロアブル 20 (F:12) 等を散布する。

9 なら ネダニ

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い (ほ場率：平年比 103%、株率：平年比 333%)。(+)
・ 向こう1か月の気温は高く、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ 多発ほ場では、薬剤防除を行う際、栽培スケジュールを十分に考慮し、ネコナカットフロアブル (I:10B) 等を株元かん注する。
・ 作付け終了後に株は集めてほ場外で処分する。

10 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	アブラムシ類	平年並	やや多	トマト	灰色かび病	少	少
	コナジラミ類	少	やや少	きく	ハダニ類	やや少	平年並

○イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率及び越冬前密度調査結果について

- ・ ヒメトビウンカ越冬世代幼虫を対象とした調査 (11月実施) の結果、ウンカ類幼虫の生息密度は平年よりやや少ない発生でしたが、イネ縞葉枯ウイルスの県平均保毒虫率は 4.4%と前年より増加しました。再生稲の丁寧な耕起を行い越冬場所をなくしましょう。
- ・ 詳細については、当センターHPに掲載中の[植物防疫ニュースNo.10](#)を御参照ください。

○果樹の病害虫防除対策について

- ・ 整枝・せん定作業時には、罹病枝を取り除くか被害部を削り取り、傷跡に薬剤を塗布しましょう。

農薬は適正に使用しましょう

○令和5年11月から令和6年1月まで、「栃木県農薬危害防止運動」を実施中です。

農薬は、容器のラベルをよく読んで適正に使用し、農薬の飛散(ドリフト)にも注意しましょう。

○花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

○薬剤防除では、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

1か月気象予報（予報期間12月23日から1月22日 12月21日 気象庁発表）

- ・寒気の影響を受けにくいとため、向こう1か月の気温は高い見込みです。
- ・向こう1か月の降水量、日照時間はほぼ平年並の見込みです。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	10	30	60
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

詳しくは農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはX（旧ツイッター）「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g64/index.html>) でもご覧になれます。



NOUGYO_KSC_TOCHIGI

Instagram 農作物病害虫図鑑@とちぎ

センター所蔵の病害虫画像をInstagram上で公開しています。

主要病害虫から珍しい種まで、定期的に更新中！

#栃木県#病害虫図鑑 検索&フォローよろしくお願いします！